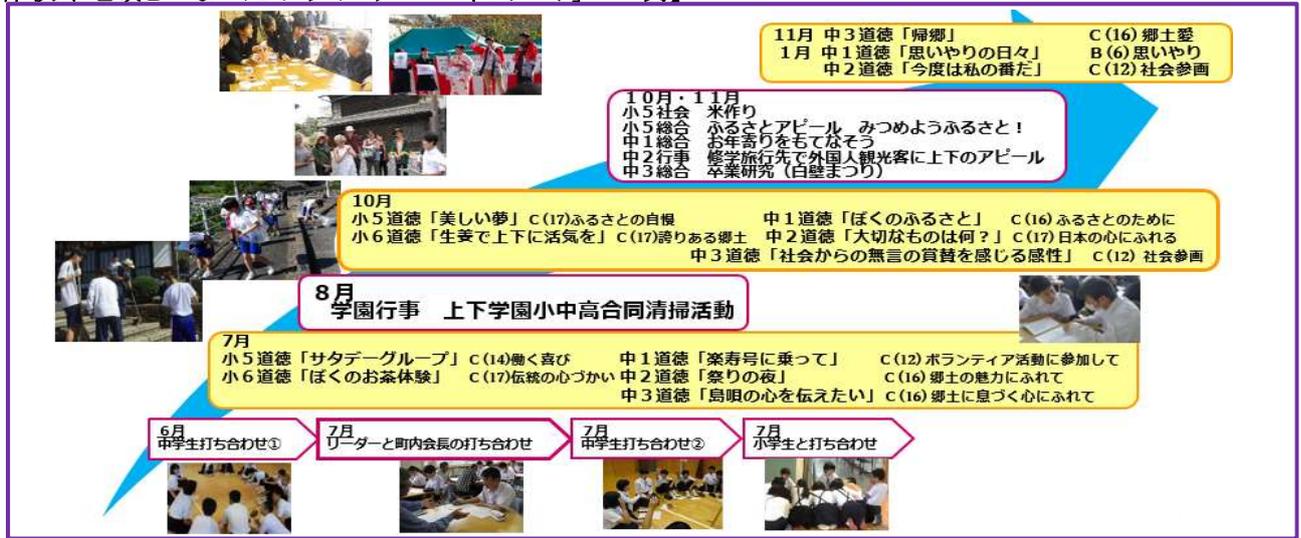


指導計画

【体験や地域とつないだ「カリキュラム・マネジメント」の一例】



【道徳科における指導事例】

- ◆主題名 「ふるさとのために」 (C 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度)
- ◆ねらい 大人になってもふるさとで働き, ふるさとの発展のために努めたいという「ぼく」の思いを考へることを通して, 郷土を愛し, 進んで地域の発展に努めようとする態度を育てる。
- ◆教材名 「ぼくのふるさと」 (出典:「新しい道徳1」 東京書籍)
- ◆学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (主な発問 (○), 中心発問 (◎), 生徒の反応 (・))	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 課題意識を持つ。	○上下町の自慢と課題を挙げてみよう。 自慢・歴史・伝統文化・祭りが多い 課題・交通の便が悪い・物が高い	○小学校の時の総合的な学習の時間の内容や活動を想起させ, 本時の主題への課題意識を持たせる。
展開	2 教材を読み, お年寄りの思いについて話し合う。	○上下町と似ているところはどんなところだろう。 ・お年寄りが多い。・村から出ていく人が多い。 ・伝統文化の太鼓がある。 ○串原村のお年寄りが, 村を離れたがらないのはどうしてだろうか。 ・住み慣れているから。 ・村が好きで, 長く住んできたところだから。 ・ふるさとを大切にしたいから。 ・人々とのかかわりがあるから。 ◎作者が, 「大人になっても串原村で働き, 村の発展のために努力していきたい。」と考えたのなぜでしょうか。 ・村が好きだから。 ・お年寄りだけでは村がダメになるから。 ・村を守りたいから。働いてお年寄りたちを守るため。 補: 不便な現実もあるけれどもいいのか。 ・村がなくなる方が困る。 ・便利になるように働きかけをする。	<p>ポイント①: 学習の系統性 (ステップアップノート活用) 高めたい資質・能力を設定し, 振り返りをもとに, 自分ごととして課題意識を持たせる。 小学6年生の時のものを活用する。</p> <p>○個人思考→グループ討議→全体交流により, 多面的・多角的な考え方ができるようにする。 ○不便な面も含めて「ふるさと」への愛着を高めることができるようにする。(補助発問) ○補助発問や切り返して, 価値を深められるようにしていく。</p>
	3 自分たちができていることを考える。	○ふるさとのために, 自分たちができていることを考えよう。 ・まずは, 上下町をよく知る。 ・上下町を盛り上げるようにしていく。 ・祭りなどにも積極的に参加し, 伝統を受け継ぐ。	<p>ポイント② 教材を身近に感じられるように類似点を考えさせる。</p> <p>ポイント③ 導入で出した上下町の課題と照らし合わせながら考えさせる。</p> <p>ポイント④: 地域の思い活用 地域の方の声を生徒に届け, 自分たちの活動が地域とつながり, 貢献したと実感させる。</p>
	4 地域の方のメッセージを聴く。	○みんなが「上下町」のために取り組んだ合同清掃活動について, 地域の方が感想を届けてくださっているので紹介します。	○自分たちの活動が, 地域の力となっていることを知り, 自己肯定感を高め, 次なる課題への意欲とする。
終末	5 本時の学習を振り返る。	○今日の学習を振り返り, 考えたことを振り返りましょう。	☆今後も郷土を愛し, 進んで地域の発展に努めようとする態度を育てることができている。(ワークシート)

ポイント⑤: 振り返りシート「あ・や・め」の活用(9年間活用)
今後の自分にかす姿勢を意識して書かせることで, ねらいとする道徳的価値について自分とのかかわりできしっかりと考えさせる。